

the Quintessence Volume 7 No. 7 別刷 1988年7月10日発行

Daryl Beach*

Comments in a nutshell

3

*：HPI(ヒューマン・パフォーマンス研究所)所長

連絡先：静岡県熱海市田原本町9-1熱海第一ビル

QUESTION

もし先生自身の口で、下顎右側第一大臼歯が欠損していたなら、どうされますか？ インプラントの適応ではないでしょうか？(S)

COMMENT

もし私自身の口で、下顎右側第一大臼歯が欠損しているなら、とくに修復はせず、残りの歯で咬もうとするでしょう。部分義歯、インプラント等による補綴や、無歯顎のまま順応するというようなオプションの一長一短を比較すると、治療せずに放置するというのが私の結論ということになるでしょう。上述の部位の固定式または可撤式補綴物は、口の中で注意を払うに値しないと思います。たとえばインプラントを入れると、私はきっと無意識あるいは習慣的に、インプラントやその上部構造が安定しているかどうか舌先で触れて試すようになるでしょう。極端ないい方をすれば、私は、インプラントの失敗は、患者が残存歯以上

の動揺度をインプラントについて感じるようになった時に、すでに始まっていると考えられると思います。

もちろん欠損のまま放置すると、対合歯が挺出することが往々にしてあります。もし挺出が起これば、そのために歯周ポケットができたり、軟組織の炎症が起これば、抜歯の可能性が考えられます。対合歯の抜去後の補綴も考えません。ただし患者さんによっては、下顎第一大臼歯の頬側面に審美的な価値を認める人もいるでしょうから、残存歯列の状態によっては、第一大臼歯の頬側面の一部を修復することも考えられます。また対合歯の挺出を予防し、または遅らせるために、上顎第一大臼歯の近心辺縁隆線に一か所コンタクトを設けることを考慮するでしょう。

同顎歯列の残存歯が動揺している場合は、会話時や微笑んだ時の外観を慎重に考慮した上で、それらの歯牙を安定化させるためのメタルの可撤式装置を入れるでしょう。このような装置は軟組織とは接触させず、歯牙との接触も最小限にとどめ、

咬合面に近心レストを設けたものになるでしょう。

新しい治療術式や材料の使用について、さまざまな成功例が報告されてきていますし、私たちは常に向上するための努力を怠りなかりしてはならないと思います。しかしコンピュータ時代といわれる今日、新しい方法や材料を、長期にわたる実績を持つ確立された方法や無治療の場合と比較する場合、リスクを負う患者の数を最小限にとどめるために、口腔の状態や治療に関するデータをもっと体系的に収集することができるはずで

す。新しい術式や、形態、材料の開発が次々となされ、インプラントは今日歯科界において大々的に喧伝され、注目を集めています。私の知っている限り、10年後の口腔の状態について、さまざまなタイプの補綴物を入れた場合の相互の比較や、修復しない場合との比較等の信頼性のあるデータは、ひとつもないように思われます。信頼性のあるデータは、潜在的な患者としての私の決定に影響を及ぼすでしょう。

QUESTION

HPI 研究所の名刺を拝見したところ、シンボル・マークがエンボスされていました。このマークは、何を象徴しているのですか？(M)

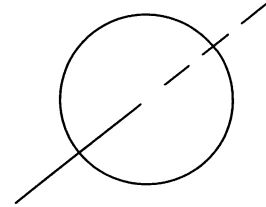
注：Dr. Daryl Beach は、HPI 研究所(Human Performance & Informatics Institute)の所長です。

COMMENT

私の解釈では、HPI 研究所のロゴ(シンボル・マーク)は、以下のことを象徴しています。難解だと思われるかも知れませんが、歯科医としての先生方の人生とどのような関わりがあるか、少しばかり時間をかけて考えていただければ幸いです。

す。

図：HPI のロゴ(シンボル・マーク)



円は人間の体の表面を表わし、円の内部は人間の体内を表わしています。実線は過去の経験を表わします。円の外側の実線は、温度、匂い、音、光と色による経験を表わし、円と実線の交点は、人体表面の接触による経験を表わします。円の内側の実線は、経験に基づく記憶や知覚を表わし、実線と破線の交点である円の中心は、現状の評価を表わします。

破線は、将来を志向した概念やアイデアを表わします。円の内側の、線より下の部分の空間は、私たちの基本的な条件である健康に関する条件の自覚や評価を表わし、円内の線より上の部分の空間は、固有感覚からのフィードバックを重視した、左脳による行為や物理的環境の評価を表わします。

人間の可能性は、過去や現在のあり方から考えることができます。また人間にとっての「あるべき条件」は、現在のあり方や可能性から選択するものです。人間にとってのあるべき条件は、円の内部の経験に基づいて、実線部分の経験(過去の経験)を評価することによって、導くことができます (文責 三明)

編集部より：Dr. ビーチへのご質問、ご意見を歓迎します。編集部または HPI 研究所まで、お便りをお寄せ下さい。